

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価	学校関係者評価	
B	確かな学力	<p>○ 各指定事業を効果的に利用し、指導主事等の指導を仰ぎ、授業改善を行い学力向上につなげる。</p> <p>○ インクルーシブ教育システムを目指し、全体の層を上げる。</p> <p>○ 全国(県)の学力調査において平均正答率を+3ポイントとする。</p>	<p>①全国学力学習状況調査、県版学力調査等において、正答率を28年度と同等にし、無回答率を下げる。</p> <p>②生徒や保護者に学力が定着していることを実感させる。</p> <p>③思考や表現の場面に授業中に取り入れ、探究的な取り組みを行い、教科の本質に迫る授業をす。</p>	<p>①学方向上のための組織的な校内研修体制づくり</p> <p>②子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)</p> <p>③学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組</p>	<p>①学方向上推進モデル校事業と連携し、研修の質を高める。</p> <p>②全国版及び県版学力調査の分析及び授業改善をすすめる。</p> <p>③国語科のTTでの授業方法を研究し、よい例「単元で行う」の学習指導案を行い、少人数、習熟度別授業で学力向上を目指す。</p> <p>④E小集団やICT機器を活用した、授業実践を進め、活気ある授業を行う。</p> <p>⑤E授業を工夫し、評価をもとにした改善サイクルを図る。</p> <p>⑥家庭学習・意識調査(年2回)</p> <p>⑦予習・授業・復習のサイクル(黄金サイクル)が見える授業づくり</p>	<p>①A各担当主導の校内研の実施ができた。</p> <p>②B◎全国学力調査で全国平均を3ポイント上回る</p> <p>③D◎県版学力調査で県平均を3ポイント上回る</p> <p>④E小集団を使い授業に、高め合う場面が設定されている。</p> <p>⑤E生徒アンケートでの「先生は授業を工夫している」で肯定的評価90%以上にする。</p> <p>⑥G宿題・自主ノートの提出率が95%を超える。</p> <p>⑦H家庭学習に関するアンケートで提出率が向上した。</p>	<p>A研究推進教諭を中心に研究を進め、東部教育事務所等からの指導を仰ぎ学力向上に務めることができた。</p> <p>B全国学力調査において、国語科では、+0.7P、数学科では、-3.3Pである。</p> <p>C国語科のTTでの授業改善を推進することができた。作文等の各コンクールに入選・入賞を多く果たすることができた。</p> <p>D数学科における分割、習熟度別授業の形態を定着させることができた。</p> <p>E電子黒板やプロジェクター、タブレットを使用している授業を行い、協働的な学びを実施できた。</p> <p>F学校評価アンケートで「先生は授業を工夫している」の肯定率が生徒一回目二回目で評価98.8-96.4%であった。「学力が定着している」の肯定率が一回目二回目で生徒90.5%-92.8%、保護者62.3%-53.3%だった。</p> <p>G毎日の詰めを行うことで、結果としてほぼ全員が提出できている。</p> <p>H学校評価アンケートの生徒への「家庭学習ができていない」の設問で、一回目二回目83.3%-80.7%であった。</p>	<p>A学力向上指定で5教科を中心に取り組んだ。本年度の指導を生かし、授業改善に努めた。また、技能教科の授業改善にも取り組む。</p> <p>B◎県版学力調査の分析の結果、無回答率が高いため、無回答を減らすよう、定期テストから指導を行う。</p> <p>C◎国語科を中心に、全教科で書かせる指導を引き続き取り組む、数学科においては、基礎基本の徹底を結び強く取り組む必要がある。</p> <p>D分りやすい授業をめざし、授業の中ICT機器を活用させた授業づくりを取り組む。</p> <p>E生徒の学力定着感は、高い。来年度も継続して授業改善に努める。保護者の評価との差があるので授業や学力についての説明や働きかけを行いたい。</p> <p>FH自主学習ノートの点検を引き続き行うとともに、家庭学習の内容を量から質へ変換する必要がある。</p>	<p>・外部の指導を仰ぎながら学校一丸となって、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>・統一した授業改善が見えるが、結果に繋がっていない内容があるので、教員の創意工夫の授業改善を望む。</p> <p>・数学の基本が、定着していないようなので、予習・復習の充実を望む。</p>	B
				<p>人間関係づくりスキルを授業に取り入れ、生徒理解や生徒同士が関わり合う機会を意図的に増やし、「いじめ」を生みださない学校づくりをすすめる。</p>	<p>①毎日の出欠状況の把握と登校に向けての早めの取り組みを行う。</p> <p>②学校や学級に自分の居場所があり、安心して学校生活を送ることができる。</p> <p>③円滑な人間関係を築き、目標意識の高い生徒を育成する。</p>	<p>①不登校傾向の生徒の出欠状況を共有し、日々の手立てを行う。</p> <p>①特別支援コーディネーターを複数名配し、ケース会や相談活動等、早期の対応を充実させる。</p> <p>②学級担任を複数名配し、保護者や生徒の多様なニーズ、相談などに対応する。</p> <p>②Q-Uを年度6月と12月に実施し、学校生活満足群を増やし自尊感情を高める。</p> <p>③保・小・中・高の18年間を見据えた発展性、系統性のあるキャリア教育の推進</p> <p>③清掃活動を縦割り班とし、関わりあう集団を多様なものとし、コミュニケーション力を向上させる。</p>	<p>①30日以上欠席の生徒を0名にする。</p> <p>②Q-Uにおける要支援群を0名にする。</p> <p>③自尊感情に関するアンケートで肯定的評価80%以上にする。</p>	<p>①不登校傾向の生徒を0名にすることは、できなかった。30日以上欠席者が3名のうち1名は改善傾向である。</p> <p>②Q-U要支援群一回目二回目は、2-4と増加した。二回目の4名のうち3名が1年生である。</p> <p>③全国学力調査生徒質問紙での肯定的評価は75.7%であった。キャリアアンケート・自尊感情に関するアンケートの結果の分析を行う。</p>	<p>①2要支援群の生徒や学級生活不満足群の生徒への面談等の機会を増やし、支援を引き続き行う。学級の中でエンカウンターを取り入れた指導を行うなど、自己肯定感を高める。</p> <p>③生徒会活動などにおいて、縦割り班等関わり合う集団の多様性を活かした取り組みを行う。</p>	<p>・挨拶も良くできており、生徒と地域の関係は良い。</p> <p>・生徒会活動および生徒同士の上下関係は、良好のように見える。</p> <p>・教員の多忙により、生徒との関わり合う時間が、短いように思う。</p> <p>・学校目標の中の「勤労」について具体的な実践を取り入れて欲しい。</p>
B	健やかな体	<p>基本的な生活習慣を確立をめざす。</p>	<p>①授業でかかわりを持たせながらプログラムも積極的に入れ、体育が好きな生徒の割合を向上させる。</p> <p>②新体力テストのD及びE評定の生徒の割合を男女共減少させる。</p> <p>③生徒自身が規則正しい生活が出来るようになる。</p> <p>④食事と生活・健康について正しい知識を獲得し、行動化できる生徒を育てる。</p>	<p>①体育の授業は、全学年男女別習で行い、単元によってはTTで行う。授業評価を生かし、具体的に授業を改善する。</p> <p>②体育の授業で新体力テストの内容を、準備運動に取り入れる。</p> <p>③学校便りや学年便り、保健便りを通じて、保護者に対して生活習慣に対する意識を高める。</p> <p>③特活の時間や専門家に充実した講演・ワークショップ等を通してTVやスマホ・PCに費やす時間を学習や他の活動に充てる。</p> <p>④家庭科の学習や給食指導をおとして、食に対する意識を高める。</p>	<p>①アンケートで体育が好きな生徒が90%以上になる。</p> <p>②新体力テストのD及びE評定の生徒の割合を男女共に10%以下にする。</p> <p>③朝食を食べる割合が100%になる。</p> <p>③TVやスマホ・PCに1日2時間以上費やす生徒の割合を30%以内にする。</p> <p>④給食時に献立に関するコメントを放送する。</p> <p>④栄養バランスを考え、自分で調理をする生徒の割合を60%以上にする。</p>	<p>①新体力テストのアンケートで運動・スポーツが好きと答えた生徒の割合は、男子78.1%、女子87.9%であった。体育の授業が楽しくと答えた生徒の割合は、男子81.8%、女子87.9%であった。</p> <p>②新体力テストのD及びE評定の生徒の割合は、男子は、D評価5名9.4%、E評価6名11.3%、女子はD評価2名7.1%、E評価0名であった。</p> <p>③朝食を全く食べない生徒の割合は0%、時々欠かす生徒の割合は14.8%(13名)であった。</p> <p>③生徒の携帯・スマホの所持率は78%、TVやスマホ・PCに1日2時間以上費やす生徒の割合は73%と高かった。</p> <p>④給食時のコメントの放送は毎日行うことができた。</p> <p>④コンツク青春講座や「お魚やさんかやっくく」等地域や市・県の事業とタイアップしながら調理実習を行うことができた。</p> <p>④兼務発令の栄養教諭による、給食指導を受けることができ、食への関心を高めることができた。</p>	<p>①体育の授業の中で、選択制の運動を取り入れるなど、授業を充実させる。</p> <p>②準備運動等に体づくなどの運動を取り入れ、体に柔軟性をつける。</p> <p>③朝食の有用性については、引き続き指導を行なっていく。</p> <p>③TVやスマホ・PCの視聴時間及び使用方法については引き続き指導の必要がある。</p> <p>④小学校と連携し、食育指導を推進する。</p> <p>④地域や行政等の事業を利用し食に関して興味を持って。取り組みを行う。</p>	<p>・基本的な生活習慣の指導体制は、食育指導を含め、継続的な取り組みがなされている。</p> <p>・スマホ、PCによる生活リズムについて、保護者との連携を含めた改善が必要に思う。</p>	B	
				<p>生徒が人間性豊かに成長するための条件整備を共に行い、お互いが成長しあう関係を築く。</p>	<p>①学年世話入や学年PTAとの連携が図れている。</p> <p>②保護者の意識改革と交流が深まっている。</p> <p>③家庭学習の充実保護者や地域も協力的である。</p>	<p>①保護者が企画、運営する行事の設定。(学P行事…父親との交流など)</p> <p>②学年懇談会の実施、日常の家庭訪問、アンケート等の実施。</p> <p>③家庭での学習チェックほか、協力の要請しながら啓発を図る。</p> <p>④家庭への情報発信(たより、学校HP、携帯サイト)の充実。</p>	<p>①学P行事など、保護者との交流の機会をもつことができた。</p> <p>②参観日や行事への参加が増加した。</p> <p>③アンケートで家庭学習に関する設問への肯定率が半数以上となる。</p> <p>④家庭や地域に情報発信(毎週の学年通信、毎月の学校たより、学期1回のPTA広報、HP随時更新)ができた。</p>	<p>①学P行事など、保護者との交流の機会を持つことができた。</p> <p>②日曜日や祝日の参観日や行事への参加率は高い。</p> <p>③保護者アンケートで「家庭学習ができていない」の設問で、一回目二回目52.8%-57.3%であった。</p> <p>④学校たよりは、定期的に発行し情報発信を行った。HPの更新が課題。</p>	<p>①2③④休日の日に学P行事、参観日の設定を行い、参加しやすい体制をつくる。</p> <p>④多くの教員がHPの更新ができるよう、講師を招いての研修を行う。</p>	<p>・学校からの発信は、良くできている。保護者や地域との連携協力も出てきていると思う。</p> <p>・教員1人ひとりが、保護者・地域との関わり合う時間について検討して欲しい。</p> <p>・CS設置により、学校が地域に何を具体的に求めているか、明確にして欲しい。</p>
A	特別支援教育	<p>○特別支援教育の理念を理解し、生徒間の交流を増やし、お互いを尊重し合える集団作りと、将来の社会生活にも生かせる、行動化できる生徒を育てる。</p>	<p>①特別支援教育の専門性を共有し、個に応じた的確な教育がなされている。</p> <p>②日常生活を見ながら、生活の中に見られる矛盾や不合理をなくしていくとする意欲が育つ。</p>	<p>①小中連携のもと、情報の交換や生徒の交流を図る。(ユニバーサルデザイン:以下UDプロジェクト研修など)</p> <p>①各種の障害に関する理解と対処方法などの研修を深め、共通理解を図り取り組みを進める。</p> <p>ケース会・支援会では、本校担当のSCやSSWにも参加を依頼し、専門的な見地からのサポートをもらう。</p> <p>②UDのある授業を研究し、できるだけ障害を感じない授業を研究する。</p>	<p>①小中の情報交換と課題の共有のための連絡会が実施できた。</p> <p>①ケース会・支援会等には生徒指導、SCやSSWが参加した。</p> <p>②授業では、常にUDのある授業を行った。</p>	<p>①生徒会と大宮小学校の児童会と共同であいさつ運動を行うことができた。</p> <p>①小中の情報交換と課題の共有のための連絡会が実施できた。</p> <p>①ケース会・支援会等には生徒指導、SCやSSWが参加した。</p> <p>①ケース会・支援会等には生徒指導、SCやSSWが参加した。</p> <p>②UDのある授業を行う事ができた。</p>	<p>①継続して取り組みを行う。</p> <p>①異動発表の後、留任教員全員が小学校との引き続きに参加する。</p> <p>②研究授業にUDの観点を取り入れた、指導案作成を行う。</p> <p>②支援が必要な生徒には、定期的なケース会、支援会等を設定し、教員が統一した取り組みを行う。</p>	<p>・大宮小学校や関係機関との連携しながら、学習会や研修会がなされている。</p> <p>・授業に集中できない生徒への支援も含めた、ユニバーサルデザイン授業の検討を望む。</p>	B	